

田原市図書館 ふしぎ文学半島プロジェクト

「ふしぎ文学マスターが薦める100冊」選者：金原瑞人氏（翻訳家・法政大学教授）

まず、選者、金原がどんな「ふしぎ文学」が好きなのか、それを知りたい、それがわからなければ、このリストを参考にしたいのか悪いのかわからないじゃないかと思う方も多いと思います。

簡単に言ってしまうと、子どもの頃から今にいたるまで、『千一夜物語』と『西遊記』が大好きです。その次に、英語の作品で、『アーサー王物語』『宝島』『ジャングルブック』、ポーの短編集などなど。とてもまっとうな作品ばかりです。

その意味では、ごく普通に信頼してくださって大丈夫だと思います。

が、高校、大学あたりから、好みが変わってきて、大学院に入ってからはずいぶん偏った読書をして、現在に至るという感じです。

小中高校生から大学生、そして一般読者にまでおすすめの、読みやすく楽しい、怖い、けど、それだけじゃないぞ、ちょっと深いぞという作品たち。

ただし、有名すぎるものはなるべく省いてます。

前半は海外もの。英語圏の古典的な恐怖、幻想短編集（いくつか現代物も入っていますが、いわゆる古典中の古典といった短編）。古い作品も、新しい訳のほうがいいと思います。

1. 『恐怖』（あなたのための小さな物語 22）柴田よしき/他著 赤木かん子/編 ポプラ社 2003
2. 『英米ホラーの系譜』R. スティーヴンソン/他著 金原瑞人/編 ポプラ社 2006
3. 『八月の暑さのなかで』金原瑞人/編訳 岩波書店 2010
4. 『南から来た男』金原瑞人/編訳 岩波書店 2012
5. 《英国短篇小説の愉しみ》シリーズ3巻
『看板描きと水晶の魚』（英国短篇小説の愉しみ1）西崎憲/編 筑摩書房 1998
『小さな吹雪の国の冒険』（英国短篇小説の愉しみ2）西崎憲/編 筑摩書房 1999
『輝く草地』（英国短篇小説の愉しみ3）西崎憲/編 筑摩書房 1999

英語圏の恐怖、幻想短編集。ただし、こちらは作家ごと。

6. 『ゴースト・ハント』H・ラッセル・ウェイクフィールド/著 東京創元社 2012
7. 『秘書綺譚』（ブラックウッド幻想怪奇傑作集）ブラックウッド/著 光文社 2012
8. 『新アラビア夜話』スティーヴンソン/著 光文社 2007

その他、英語圏の作家のものとして古めのものから少し。

デ・ラ・メアは、子どもから。ルイスとマチューリンは、高校生以上かな。

9. 『ムルガーのはるかな旅』ウォルター・デ・ラ・メア/著 早川書房 1979

10. 『魔法のうわぎ』 ウォルター・デ・ラ・メア/著 大日本図書 1969
11. 『マンク』 マシュー・グレゴリー・ルイス/著 国書刊行会 1995
12. 『放浪者メルモス』 チャールズ・ロバート・マチューリン/著 国書刊行会 2012

以下、英語圏の現代作家のものを順不同で。

13. 『かかし』 ロバート・ウェストール/作 徳間書店 2003
14. 『ブラッカムの爆撃機』 ロバート・ウェストール/作 岩波書店 2006
15. 『ラベルのない缶詰をめぐる冒険』 アレックス・シアラー/著 竹書房 2007
16. 『壊れやすいもの』 ニール・ゲイマン/著 角川書店 2009
17. 『墓場の少年』 ニール・ゲイマン/著 角川書店 2010 (※)
18. 『神の左手』 ポール・ホフマン/著 講談社 2011
『悪魔の右手』 ポール・ホフマン/著 講談社 2012
19. 『怪物はささやく』 パトリック・ネス/著 あすなろ書房 2011
20. 『モンタギューおじさんの怖い話』 クリス・プリーストリー/著 理論社 2008
『船乗りサッカレーの怖い話』 クリス・プリーストリー/著 理論社 2009
『トンネルに消えた女の怖い話』 クリス・プリーストリー/著 理論社 2010
21. 『魔女の愛した子』 マイケル・グルーバー/著 理論社 2007
22. 『肩胛骨は翼のなごり』 デイヴィッド・アーモンド/著 東京創元社 2000
23. 『ヘヴンアイズ』 デイヴィッド・アーモンド/著 河出書房新社 2003
24. 『12の怖い昔話』 スーザン・プライス/作 長崎出版 2009
25. 『呪われた航海』 イアン・ローレンス/作 理論社 2001
26. 『心の宝箱にしまう15のファンタジー』 ジョーン・エイキン/著 竹書房 2006
27. 『ハーメルンの笛吹きを追え!』 ビル・リチャードソン/著 白水社 2004
28. 『壇の中の手記』 ジェラルド・カーシュ/著 晶文社 2002
29. 『完全版 最後のユニコーン』 ピーター・S・ビーグル/著 学習研究社 2009
30. 『タマスターラー』 タニス・リー/著 早川書房 1987

英語圏のいかにもファンタジーらしいファンタジー

31. 《古王国記》シリーズ
『サブリエル 冥界の扉』(古王国記1) ガース・ニクス/著 主婦の友社 2002
『ライラエル 氷の迷宮』(古王国記2) ガース・ニクス/著 主婦の友社 2003
『アブホーセン 聖賢の絆』(古王国記3) ガース・ニクス/著 主婦の友社 2004
32. 《パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々》シリーズ
『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々1 盗まれた雷撃』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2006
『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々2 魔海の冒険』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2006
『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々3 タイタンの呪い』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2007
『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々4 迷宮の戦い』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2008

- 『ハーシー・ジャックとリンスの神々5 最後の神』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2009
 『ハーシー・ジャックとリンスの神々外伝 ハデスの剣』リック・リオーダン/著 ほるぷ出版 2010
 33. 『エルフギフト上 復讐のちかい』スーザン・プライス/作 ポプラ社 2002
 『エルフギフト下 裏切りの剣』スーザン・プライス/作 ポプラ社 2002

英語圏で戦後書かれた2大三部作

『ナルニア国物語』や『指輪物語』や『ゲド戦記』の対極にあるファンタジー

34. 《ゴーマンガースト三部作》
 『タイタス・グローン』（ゴーマンガースト三部作1）マーヴィン・ピーク/著 東京創元社 1985
 『ゴーマンガースト』（ゴーマンガースト三部作2）マーヴィン・ピーク/著 東京創元社 1987
 『タイタス・アローン』（ゴーマンガースト三部作3）マーヴィン・ピーク/著 東京創元社 1988
 35. 《ジェフリー・フォード三部作》
 『白い果実』ジェフリー・フォード/著 国書刊行会 2004
 『記憶の書』ジェフリー・フォード/著 国書刊行会 2007
 『緑のヴェール』ジェフリー・フォード/著 国書刊行会 2008

S Fから

36. 『沈んだ世界』J・G・バラード/著 東京創元社 1968
 『燃える世界』J・G・バラード/著 東京創元社 1970 (※)
 『結晶世界』J・G・バラード/著 東京創元社 1969
 『狂風世界』J・G・バラード/著 東京創元社 1970
 37. 『わたしを離さないで』カズオ・イシグロ/著 早川書房 2006
 38. 『心のナイフ 上』パトリック・ネス/著 東京創元社 2012
 『心のナイフ 下』パトリック・ネス/著 東京創元社 2012

ヨーロッパの作品から

39. 『木のぼり男爵』イタロ・カルヴィーノ/著 白水社 1995
 40. 『猫とともに去りぬ』ロダーリ/著 光文社 2006
 41. 『ムーミン谷の冬』（ムーミン童話全集5）トーベ・ヤンソン/作・絵 講談社 1990
 42. 『ソモフの妖怪物語』オレスト・ミハイロヴィチ・ソモフ/著 群像社 2011
 43. 『女帝 わが名は則天武后』シャン・サ/著 草思社 2006
 44. 『香水—ある人殺しの物語』パトリック・ジュースキント/著 文藝春秋 2003

ラテンアメリカの作品から好きな作品を

45. 『エレンディラ』G・ガルシア＝マルケス/著 筑摩書房 1988

46. 『美しい水死人』(ラテンアメリカ文学アンソロジー) G・ガルシア＝マルケス/他著 福武書店 1995
 47. 『夜のみだらな鳥』(世界の文学31) ホセ・ドノソ/著 集英社 1976
 48. 「悪魔の涎/追い求める男」(『秘密の武器』に収録) フリオ・コルタサル/著 岩波書店 2012

ここからあとはヴィジュアル本。絵本のたぐいです。ただし、あまり子ども向けではないかも。むしろ大人向け？ 子ども度の高いものから並べてみます。

49. 『終わらない夜』セーラ・L・トムソン/文 ロブ・ゴンサルヴェス/絵 ほるぷ出版 2005
 『真昼の夢』セーラ・L・トムソン/文 ロブ・ゴンサルヴェス/絵 ほるぷ出版 2006
 『どこでもない場所』セーラ・L・トムソン/文 ロブ・ゴンサルヴェス/絵 ほるぷ出版 2010
 50. 『地球のかたちを哲学する』ギヨーム・デュプラ/文・絵 西村書店 2010
 51. 『まっくら、奇妙にしずか』アイナール・トゥルコウスキィ/著 河出書房新社 2008
 52. 『アライバル』ショーン・タン/著 河出書房新社 2011
 53. 『いつまでも、鰐』レオポルド・ショヴォー/著 文遊社 2006
 54. 『うろんな客』エドワード・ゴーリー/著 河出書房新社 2000
 55. 『狂人の太鼓』リンド・ウォード/著 国書刊行会 2002

番外編

56. 『百禁書』ニコラス・J・キャロライズ/他著 青山出版社 2004

21世紀になってから読んだ海外ファンタジーのなかのベスト！

57. 『漂泊の王の伝説』ラウル・ガジェゴ・ガルシア/作 偕成社 2008

後半は日本もの。どういう基準かときかされると困ります。なるべく新しい作品のうちから、絶対におすすめ！ というものを思いつくままに並べてみました。

58. 『うたう百物語』佐藤弓生/著 メディアファクトリー 2012
 59. 『いっぺんさん』朱川湊人/著 実業之日本社 2007
 60. 『11 eleven』津原泰水/著 河出書房新社 2011
 61. 『きのこ文学名作選』飯沢耕太郎/編 港の人 2010 (※)
 62. 『番犬は庭を守る』岩井俊二/著 幻冬舎 2012
 63. 『ヴァンパイア』岩井俊二/著 幻冬舎 2012
 64. 『雨月物語』(ストーリーで楽しむ日本の古典5) 金原瑞人/著 岩崎書店 2012
 65. 『山尾悠子作品集』山尾悠子/著 国書刊行会 2000
 66. 『ラピスラズリ』山尾悠子/著 国書刊行会 2003
 67. 『龍宮』川上弘美/著 文藝春秋 2002

『雨月物語』は金原翻案で、現代の高校生が語ってます。

68. 『甘い水』 東直子/著 リトルモア 2010
69. 『夜市』 恒川光太郎/著 角川書店 2005
70. 『抱擁』 辻原登/著 新潮社 2009
71. 『家守綺譚』 梨木香歩/著 新潮社 2004
72. 『GOTH』 乙一/著 角川書店 2002
73. 『朱鳥の陵（あかみどりのみささぎ）』 坂東眞砂子/著 集英社 2012
74. 『きつねのはなし』 森見登美彦/著 新潮社 2006
75. 『宇田川心中』 小林恭二/著 中央公論新社 2004
76. 『夜の写本師』 乾石智子/著 東京創元社 2011
『魔道師の月』 乾石智子/著 東京創元社 2012
77. 《暁と黄昏の狭間》シリーズ
『暁と黄昏の狭間1 竜魚の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2008
『暁と黄昏の狭間2 薬王樹の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2008
『暁と黄昏の狭間3 角獣の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2008
『暁と黄昏の狭間4 甲蛇の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2008
『暁と黄昏の狭間5 月虎の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2008
『暁と黄昏の狭間6 鳳船の書』 西魚リツコ/著 徳間書店 2009
78. 『アラビアの夜の種族』 古川日出男/著 角川書店 2001
79. 『猫を抱いて象と泳ぐ』 小川洋子/著 文藝春秋 2009
80. 『ゆみに町ガイドブック』 西崎憲/著 河出書房新社 2011
81. 『赤ずきん』 いしいしんじ/文 ほしよりこ/絵 フェリシモ出版 2009
82. 『クク氏の結婚、キキ夫人の幸福』 佐野洋子/著 朝日新聞出版 2009
83. 『クマのあたりまえ』 魚住直子/著 ポプラ社 2011
84. 『ともだちは海のおい』 工藤直子/作 長新太/絵 理論社 1984
85. 『プラネタリウムのあとで』 梨屋アリエ/著 講談社 2010
86. 『すきまのおともだちたち』 江國香織/著 こみねゆら/絵 白泉社 2005

ここからちょっと古い

87. 『こうちゃん』 須賀敦子/文 酒井駒子/画 河出書房新社 2004
88. 『眉村卓コレクション異世界篇I ぬばたまの……』 眉村卓/著 出版芸術社 2012
89. 『魔境遊撃隊 第一部』 栗本薫/著 角川書店 1984
『魔境遊撃隊 第二部』 栗本薫/著 角川書店 1984
90. 『悪魔のトリル』 高橋克彦/著 祥伝社 2007
91. 『鍵―自選短編集』 筒井康隆/著 角川書店 1994
92. 『異形の白昼』 筒井康隆/編 立風書房 1979
93. 「能登怪異譚」（『赤い酒場』に収録） 半村良/著 出版芸術社 1993

古典からふたつだけ

- 94. 『怪談牡丹燈籠』 三遊亭円朝/作 岩波書店 2002
- 95. 『真景累ヶ淵』 三遊亭円朝/著 中央公論新社 2007

ガイドブック

- 96. 『ファンタジー・ブックガイド』 石堂藍/著 国書刊行会 2003
- 97. 『世界幻想作家事典』 荒俣宏/著 国書刊行会 1987

写真集

- 98. 『スモールプラネット』 本城直季/写真 リトルモア 2006
- 99. 『NAMI』 梶井照陰/写真 リトルモア 2004

コミック

- 100. 『少年少女漂流記』 古屋兎丸/著 乙一/著 集英社 2007

以上、シリーズ物をひとつと数えての100選です。

海外編、日本編になっています。両方とも最後のほうには絵本や写真集が数冊入っています。マンガは原則としてははずしましたが、『少年少女漂流記』は原作者が乙一なので、まあいいかと入れてみました。好きなので。

全体を大きく分けると、まあ、みればわかりますが、翻訳物と日本の作品の2種類です。

100点すべて翻訳物にしようかとも思ったのですが、どうしても日本の作品であげておきたいものもあったので、こんな感じになりました。

金原瑞人



(※)の資料は、2012年10月末現在、未所蔵のため、ご覧になりたい方は、リクエストサービスをご利用ください。